

「まぼろしのノーベル賞—山極勝三郎の生涯」が受賞しました。

同期生の皆様いかがおすごしですか。神田愛子です。嬉しいお知らせを送る事ができて大変に喜んでます。

こつこつと書き進めた「まぼろしのノーベル賞—山極勝三郎の生涯」の本が、第60回産経児童出版文化賞の産経新聞社賞に決まりました。平成25年5月5日の産経新聞に半ページを用いて発表されました。私は近所のデイリーストア—2軒に走り新聞を買いました。(我が家は信濃毎日新聞)

以下 受賞図書を紹介文を載せます。

「
千葉大学大学院教授・木下勇
1915年、世界で初めて人工的にガンを発生させることに成功した山極勝三郎の伝記。ノーベル賞候補に推薦されたが、競い合っていた候補者に賞は決まる。(1926年)ところが40年後にそれは誤りで、山極の業績こそふさわしいものだったとノーベル賞選考委員が後で述べるほど、今日のがん研究の発展の基礎をつけた世界の医学界に知られる偉人である。しかし、わが国では一般に知名度が低い。
子ども達の読み物として世に出ることはその存在だけでも意味がある。
成功に貢献した助手の市川はじめ周囲の人達をたたえる所は、昨年のノーベル賞受賞の山中教授とも通じる。本の体裁は今時の子ども達には古風すぎるかもしれないが、山極が弟子と俳句で気持ちを交わすやりとりは風流で、困難な状況でも夢を諦めず、心理を追求する科学者の姿勢とともに、何かほのぼのとした昔の豊かさを伝える。」

この賞は、昨年度一年間に刊行された児童向けの新刊書を対象に審査され、全部で8点。大賞・JR賞・美術賞・産経新聞社賞・フジテレビ賞・ニッポン放送賞・翻訳作品賞です。

ちなみに 大賞は、「タマゾン川」山崎充哲著 旬報社。

授賞式は7月9日 千代田区飯田橋ホテルメトロポリタンで、秋篠宮紀子様ご臨席の下(……こう言うんですかね?)行われます。

今からわくわくしています。

「次は何を書くのか?」と、よく聞かれます。信州上田の偉人を書いていきたいと思っています。でもノンフィクションって大変なんです。資料集めから、資料の読み込みから…、そう簡単にはいきません。同期生の皆様、私の方が長生きしたら、皆様の「業績と人のなり」を書きたいと思います。どうか、研究物・写真・日記等資料となるものはすべて、残しておいて下さいね。

2013/06/11 神田愛子(10組)